

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

倉 岳 山－手応え十分の駅前登山－

倉岳山(小篠貯水池から)



9月中旬、前道志・倉岳山(990m)に登った。倉岳山は、甲府方向に向かう中央線の左手車窓にひととき目立って見えるピラミッド型の山である。

午前9時、JR中央線鳥沢駅から登山が始まる。薄曇りだが無風の好日。甲州街道を東へ10分程歩き、「倉岳山」の道標に従って右に入り、踏切を渡る。集落の中の歩きが結構長く、虹吹橋を渡って9時40分、小篠貯水池に着き一休みした。きれいな園地にはアズマ屋もあり、池を隔てて仰ぐ倉岳山のどっしりした姿が印象的である。



小篠沢の登り

に左に、ルート選びに神経を使いながら登る。岩走る瀬音が耳にうるさい程。時折り



ツリフネソウ

次いでほの暗い杉林の中の登り。岩がゴロゴロした小篠沢の中を右に出会わすツリフネソウの可憐な姿に心が和む。馬頭観音、夫婦松を過ぎ、やっと沢から



穴路峠

解放されて右岸の急斜面のジグザグ登りになり、11時10分穴路峠に到着した。その名のとおり、狭い稜線に穴ボコをえぐったような峠は、かつてこの峠を行き来した山里の人の息づかいが聞こえるかのようにひっそり静まりかえっていた。

ここから高畑山(982m)を往復する。峠から西へ3回程登り下りを繰り返す。最後にカヤトをかき分けての登り。高畑山頂上到着12時。目の前の富士山が大きく圧倒的な姿だった。

穴路峠に戻り、今度は本日の本命の倉岳山に向かう。大した行程でもなく雑木林の中の若干の登り下りを繰り返すうち、難なく12時50分、倉岳山山頂に到着した。山頂は東西に長広く、数組の先客が弁



倉岳山山頂

当を広げ賑やかにオシャベリしている。眺望は木立ち越しであまり良くない。私も一角に座り込んで、お湯を沸かし、のんびり昼食休憩をとった。13時40分出発、立野峠から月屋根沢経由で下山する。頂上直下の急斜面の後、3回程ちょっとした登り降りを繰り返すうちにいつの間にか立野峠。峠からは、暗い松林のジグザグ下りの後、月屋根沢に沿うほの暗い雑木のトンネルの中のただただ長い下り。15時40分、ようやくJR梁川駅にたどり着いた。標高差約700m、手応え十分の駅前登山だった。